

# 急性腹症のCT

## ～泌尿器系症例～

県立久慈病院

診療放射線科

◎木下峻  
白井奈緒子  
小笠原秀利  
熊谷由基

阿部義幸  
佐々木大盛

猪股翔也  
佐々木卓

放射線科

# 当院の使用機器

CT: 東芝Aquilion64

インジェクター: 根本杏林堂 デュアルショットGX

ワークステーション: Ziosoft社 ziostation

# 症例① 尿管結石による尿溢流

患者：82歳男性

主訴：心窩部～下腹部痛

既往歴：50年前胃癌手術  
外傷既往なし

# 尿溢流

尿が、尿路組織を通過し、尿路外に流れ出る状態。  
尿路外傷で組織が脆弱な時や、  
尿路結石や前立腺肥大症で尿路がつまり  
内圧が急上昇することがきっかけとなる。

# 腹部単純写真



# 造影CTの撮影条件

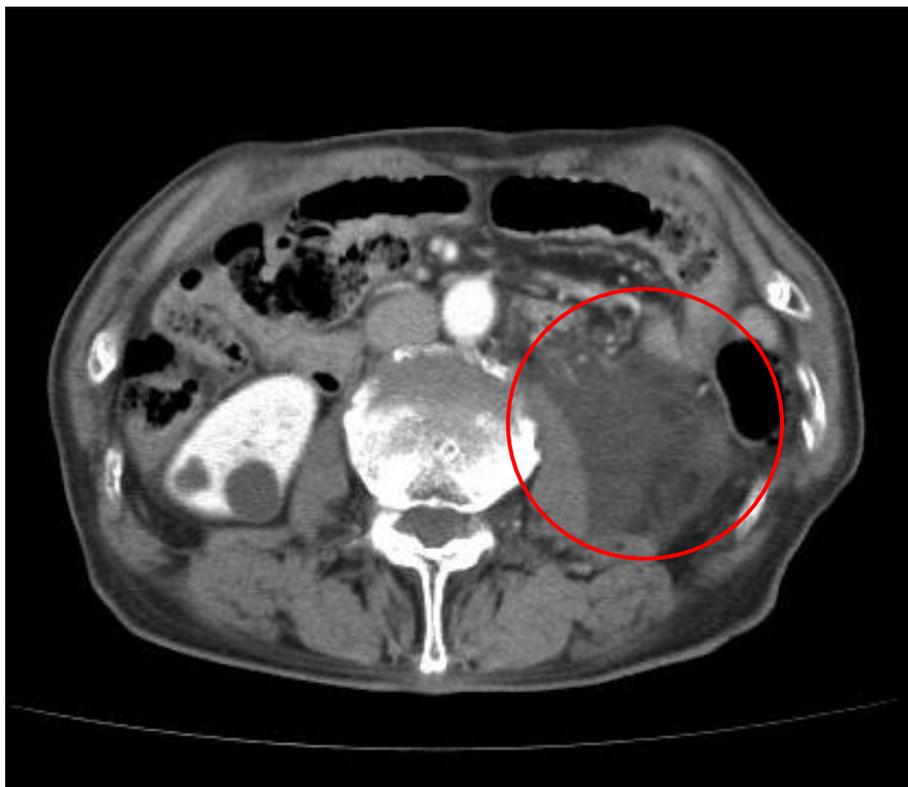
## スキャン条件

- ・管電圧: 120KV
- ・管電流: 自動露出機構
- ・撮影スライス厚: 1mm
- ・スキャン速度: 0.5sec/rot
- ・ピッチ: 27/32 (BP=0.84)

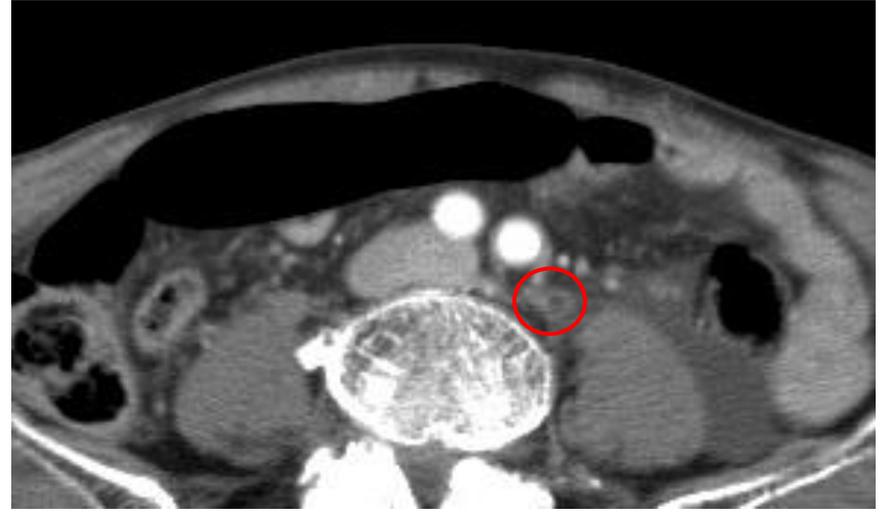
## 造影剤注入法

- ・造影剤濃度: 300mgI/ml
- ・注入量: 80ml
- ・注入速度: 1 ml/sec
- ・撮影開始時間: 90sec

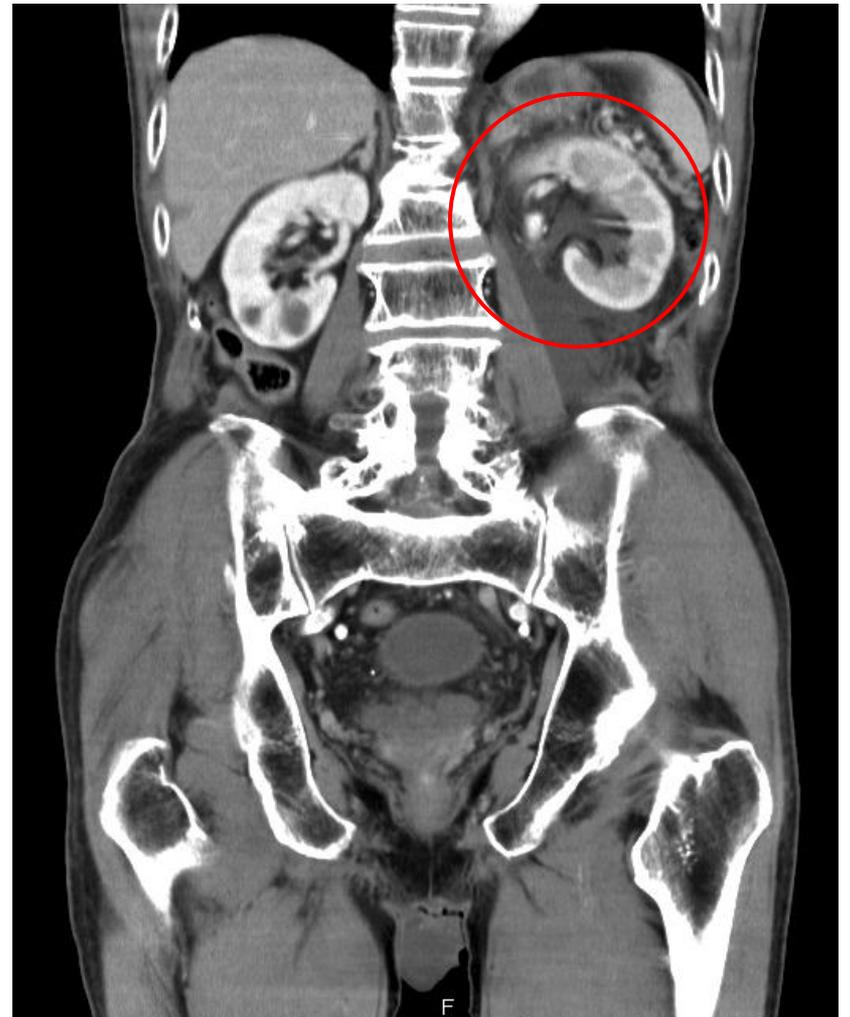
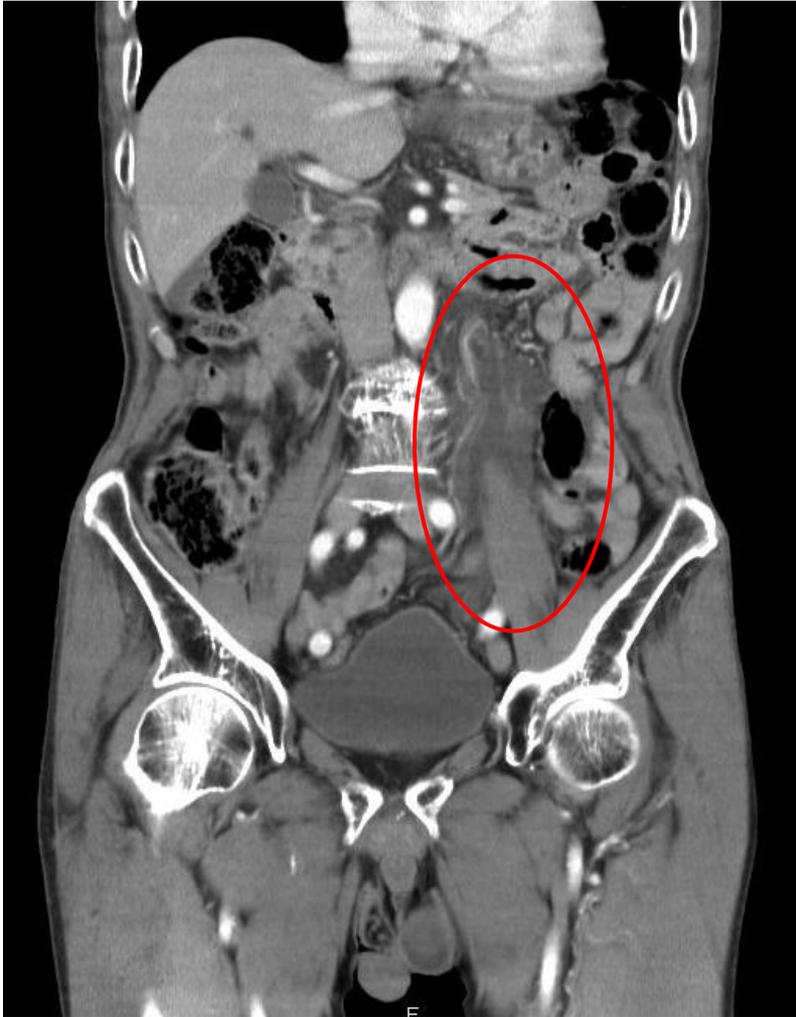
# 造影CT



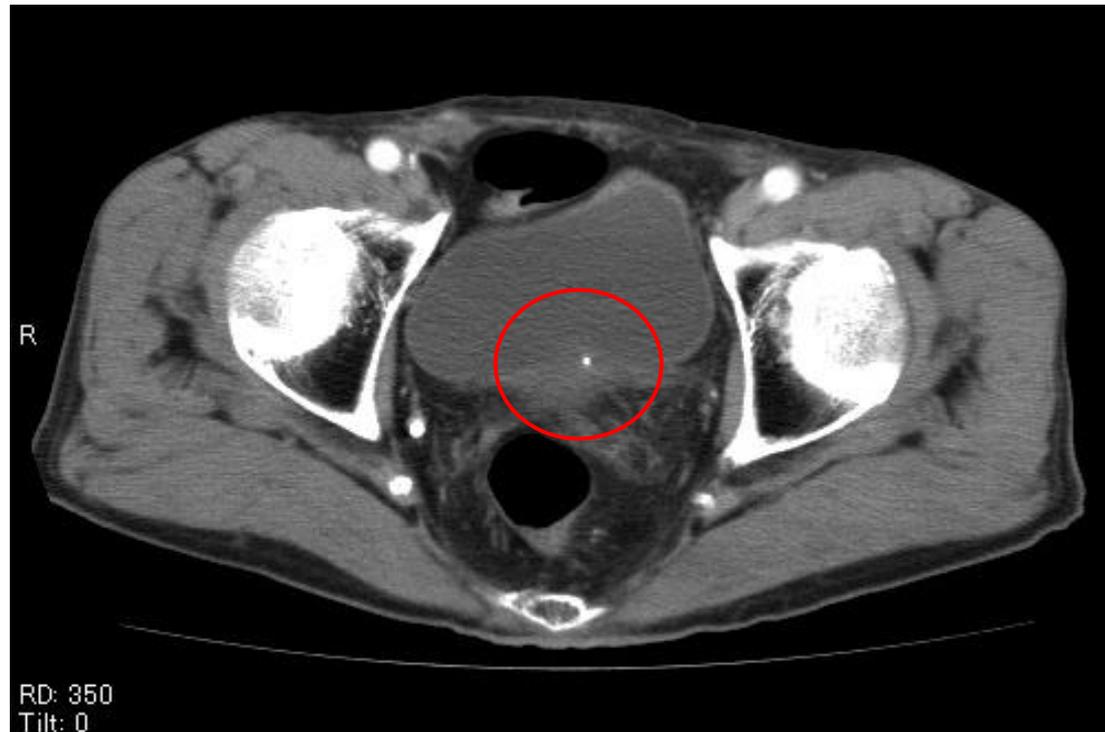
# 造影CT



# 冠状断



# 尿管結石

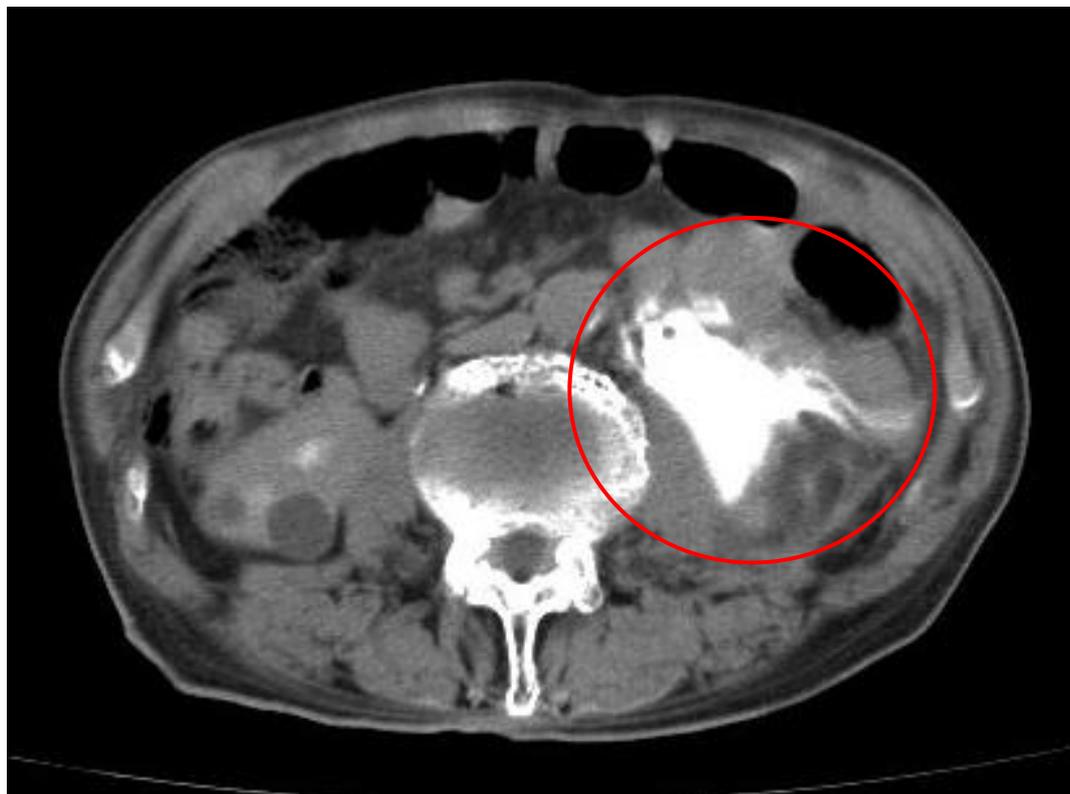


スライス厚7mm

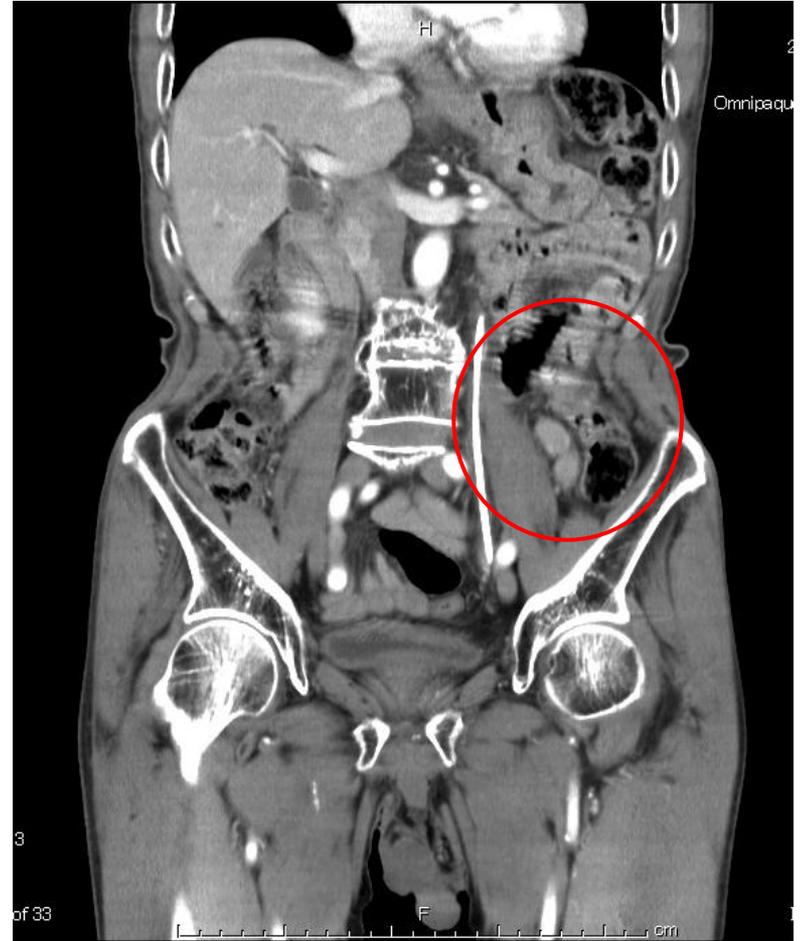
# Thin slice



# 造影1時間後追加撮影



# 經過



# 症例① まとめ

## 尿管結石による尿溢流の CT画像所見

- ①尿管結石
- ②腎盂、尿管拡張
- ③後腹膜の腹水貯留
- ④対側腎に比べ髓質造影遅延

造影1時間後CTも有用

## 症例② 腎梗塞

患者:63歳男性

主訴:左下腹部痛

前夜からの腹痛で他院受診

精査のため当院の救急紹介受診

既往歴:28年前 虫垂炎

15年前 交通外傷 脾破裂

5年前 脳梗塞(片麻痺)

心房細動

# 腎梗塞

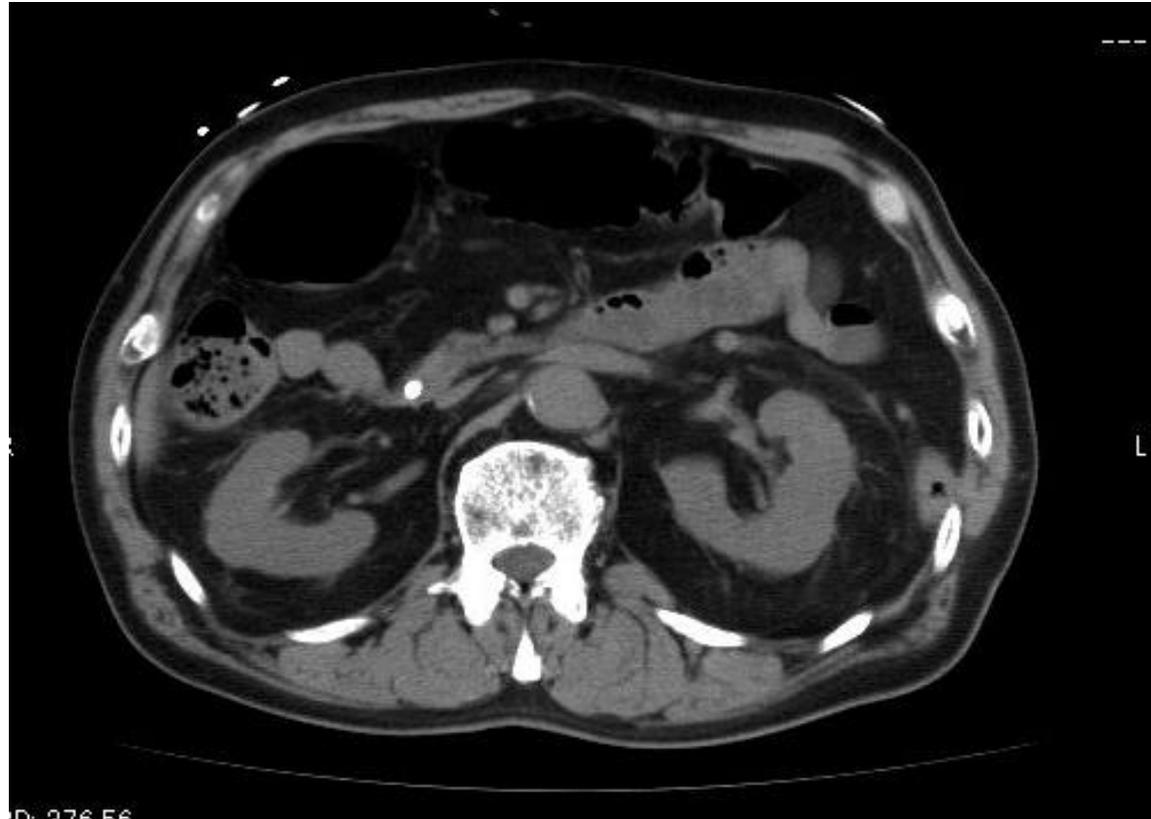
腎動脈の閉塞により動脈の血液供給が遮断され、腎組織が虚血壊死を起こす病態。

閉塞原因として、心房細動に合併した左心耳血栓の遊離による**心原性塞栓症**が最多。

# 心原性塞栓症

大動脈の主幹分枝塞栓を同時に合併することがあり、内頸動脈、上腸間膜動脈、上腕動脈、腸骨動脈、腎動脈の閉塞症状評価が必要。

# 単純CT



# 造影CTの撮影条件

## スキャン条件

- ・管電圧: 120KV
- ・管電流: 自動露出機構
- ・撮影スライス厚: 1mm
- ・スキャン速度: 0.5sec/rot
- ・ピッチ: 27/32 (BP=0.84)

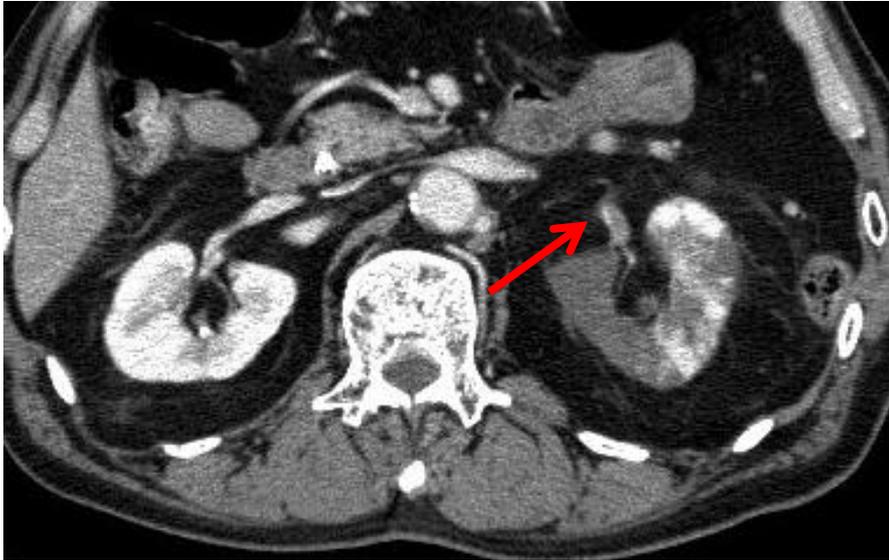
## 造影剤注入法

- ・造影剤濃度: 300mgI/ml
- ・注入量: 80ml
- ・注入速度: 1 ml/sec
- ・撮影開始時間: 90sec

# 造影CT



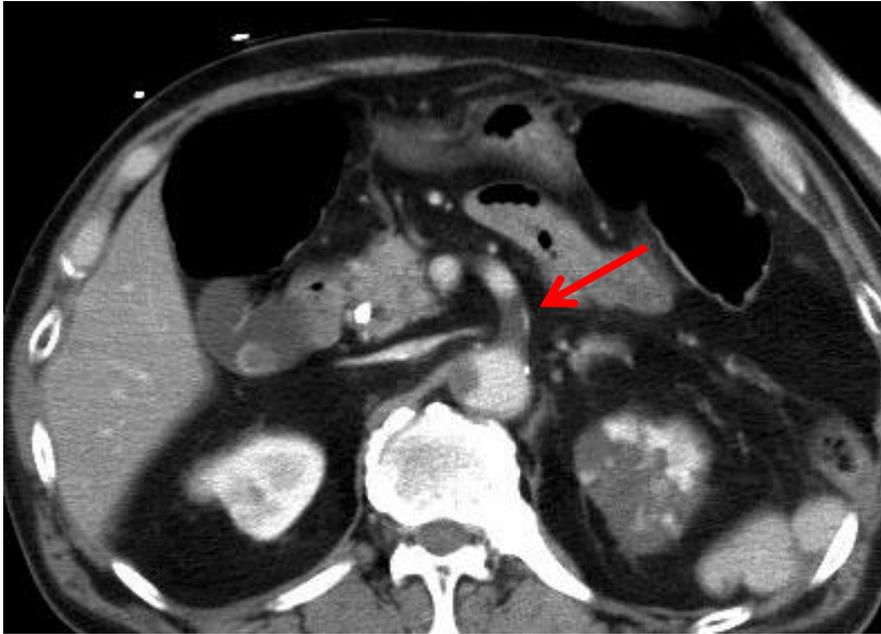
# 腎動脈の血栓



# 冠状断



# 上腸間膜動脈



## 症例② まとめ

- ・腎梗塞は心原性のものが多く、本症例でも心房細動が原因であったと考えられる。
- ・腎梗塞の場合、腎動脈を含む**大動脈の主幹分枝**（上腸間膜動脈など）の**閉塞症状の評価**が必須。

# 結論

- ・2症例の急性腹症に対し、  
当院の急患ルーチン撮影の条件で、  
診断に堪えうる画像の撮影を行うことができた。
- ・当院の体制においては、CT担当者以外でも  
簡便に設定・使用できるプロトコルである、  
この条件の利用が望ましい。